

「小さな芽 届け未来へ 緑の力」 ～平成22年度東通村植樹祭～

6月19日(土)、平成22年度東通村植樹祭が、尻労共有地内(大沼周辺)で行われ、古野牛川子ども会、ボーイスカウト東通第1団、村内各漁業協同組合長、東北電力、東京電力のほか、関係者やボランティアの方々など約250名が参加しました。

この植樹祭は、森林保護と森林が作り出す水の循環による豊かな漁場造りを目的に東通村緑化推進委員会(会長:越善靖夫村長)が平成13年度から毎年実施しているもので、今回で10回目になります。植樹会場となった大沼周辺は、湖沼群が点在する豊かな自然環境が保全されている地域で、土地所有者の尻労共有会(会長:小笠原清春、会員33名)の全面的な協力を頂き、今年で6年目の植樹となりました。

植樹に先立ち、村緑化推進委員会会長である越善村長より「これまで大沼周辺に植樹された苗木は約6,000本になり、将来、この一帯は眼下の大沼と調和した素晴らしい景観を見せてくれることと思いをしています。豊かな森を造ることは、栄養分を多く含んだ水が川を流れて海へ流れ、豊かな漁場造りにつながるという水循環システムを理解し、この緑豊かな森を守り、美しい東通村を後世に残すことが私たちの責務であると思っています。」と挨拶があり、続いて来賓の方々を代表して下北森林管理署飯田裕一署長から祝辞が述べられました。

東通村森林組合杉本文悦参事から植樹方法が説明され、来賓の方々によりオオヤマザクラ12本の記念植樹が行われ、その後、参加者全員で、コナラ、クヌギ、ヤマモミジの3種類の苗木600本の植樹が行われました。また、東京電力より尾瀬で育てたブナの苗木20本が寄贈され、あわせて植樹されました。参加者の皆さんは、1本1本丁寧に、緑あふれる森林の維持・再生を願いながら植樹し、最後に越善村長と子ども達の手で記念標柱が建てられました。植樹終了後には、参加者の皆さんに、村の木でもある「イチイ」の苗木がプレゼントされ、植樹祭が終了しました。私たちの暮らしを支え、豊かにする森を守っていくため、今後も「育てる活動」に積極的に取り組んでいきます。



オオヤマザクラを植樹する越善村長



ボーイスカウト東通第1団



一生懸命植えました!(古野牛川子ども会)



たくさんの方々が植樹祭に参加しました